

統合報告書2025

 住友金属鉱山



MINING THE FUTURE

目次

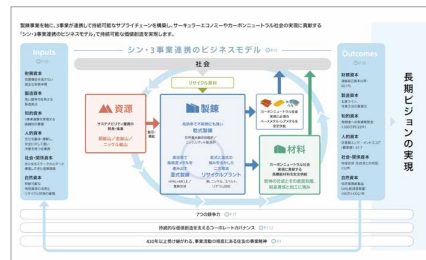
- 1 目次
- 2 編集方針

住友金属鉱山とは

- 3 企業理念
- 4 長期ビジョン
- 5 価値創造のあゆみ
- 9 At a Glance
- 10 3つのコア事業
- 11 マテリアルフロー

価値創造の仕組み

- 14 価値創造プロセス



- 15 シン・3事業連携のビジネスモデル
- 17 7つの競争力
- 19 インプット・アウトカム
- 21 財務・非財務ハイライト

住友金属鉱山グループのありたい姿

- 26 トップメッセージ



- 33 サステナビリティ推進体制
- 35 重要課題と「2030年のありたい姿」策定と改正
- 36 改正後の重要課題と推進組織
- 37 重要課題とその背景
- 38 重要課題とKPI

価値創造の中長期戦略

- 42 中期経営計画の変遷
- 46 中期経営計画2027(中計27)



- 54 財務戦略

- 55 社外取締役鼎談



- 59 資源事業
- 63 製錬事業
- 68 材料事業(電池材料)
- 71 材料事業(機能性材料)
- 75 研究開発
- 79 品質保証
- 80 デジタル・トランスフォーメーション(DX)
- 85 **Close Up** 製錬に革新を—金属DXの挑戦



価値創造への取り組み

- 88 | 重要課題 | 人的資本経営
- 95 労働安全衛生
- 98 | 重要課題 | 非鉄金属の安定供給とサーキュラーエコノミーへの貢献

- 100 | 重要課題 | カーボンニュートラル社会への貢献
- 103 | 重要課題 | 地球環境保全
- 106 | 重要課題 | 地域社会との共存共栄
- 108 | 重要課題 | サプライチェーンマネジメント
- 110 ビジネスと人権

価値創造を支える基盤

- 112 コーポレートガバナンス
- 126 リスクマネジメント
- 129 コンプライアンス
- 131 リスクと機会
- 133 役員一覧

データセクション

- 135 世界の非鉄金属産業と住友金属鉱山グループ
- 137 長期ビジョンのターゲットと進捗
- 139 11年間の主要財務指標の推移
- 141 事業別実績
- 143 2024年度実績と2025年度計画
- 145 連結財務諸表
- 150 主要非鉄金属の価格と為替相場の推移
- 151 用語集
- 155 住友金属鉱山グループの事業展開
- 157 会社概要および株式に関する情報
- 158 真正性表明

編集方針

統合報告書2025のコンセプト

「統合報告書2025」では、当社の価値創造の仕組みや戦略を紹介し、長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」の実現に向けた道筋を解説しています。ステークホルダーの皆様にとって網羅的でありながらも、より読みやすい内容にするよう心掛けるとともに、当社株式に関する投資判断の視点に配慮した情報を充実させています。

特に、2025年度が初年度となる「中期経営計画2027(中計27)」の戦略および、製錬事業を軸に、3事業が連携して持続可能なサプライチェーンを構築し、サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラル社会の実現に貢献する「シン・3事業連携のビジネスモデル」をご理解いただける冊子を

目指しています。また、2025年3月に社会情勢・経営環境等の変化を踏まえて重要課題を見直した「2030年のありたい姿」とこれに伴い改正した「KPI・目標」も解説しています。

本報告書が、ステークホルダーの皆様にとって、当社グループの持続的成長および持続可能な社会の実現に向けた取り組みをご理解いただく一助となれば幸いです。

参照ガイドライン

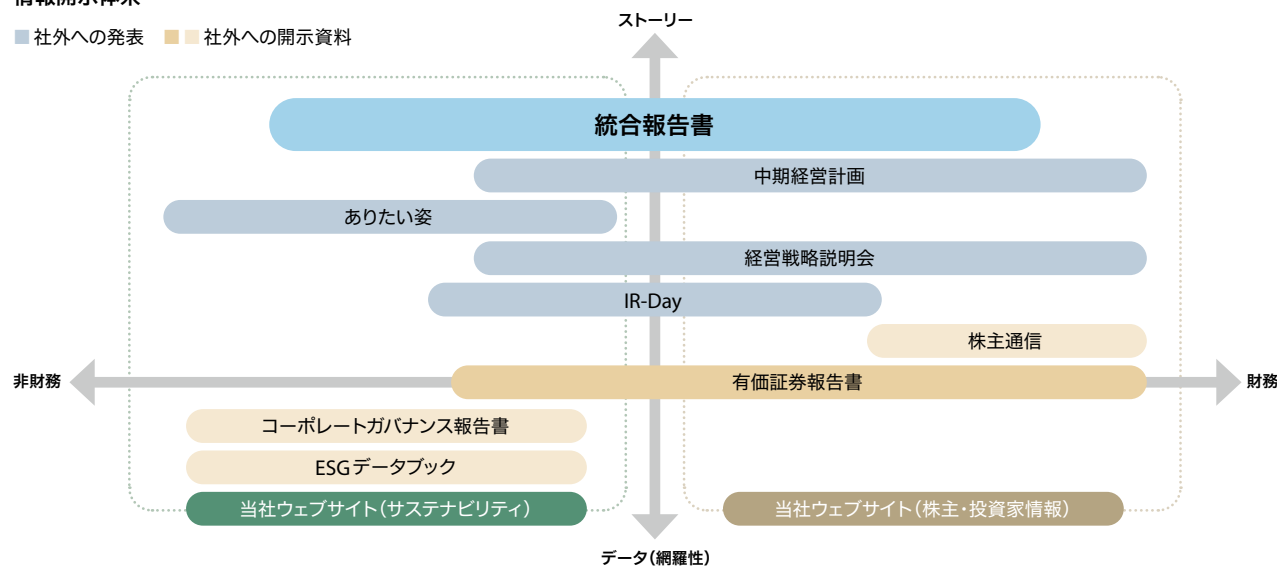
- IFRS 財団: 国際統合報告フレームワーク
- ISO26000: 社会的責任に関する手引
- 経済産業省: 価値協創ガイダンス
- Global Reporting Initiative (GRI) 「GRIスタンダード」(準拠)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース
(Task Force on Climate-related Financial Disclosures: TCFD) 提言
- 企業サステナビリティ報告指令
(Corporate Sustainability Reporting Directive: CSRD)

将来情報に関するご注意

本統合報告書には、当社の中期経営計画などについての様々な経営目標およびその他の将来予測が開示されています。これらの経営目標およびその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定および予想ならびに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の国内外の情勢などにより変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予測の達成および将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことについて、ご認識いただくようお願い申し上げます。

情報開示体系

■ 社外への発表 ■ 社外への開示資料



対象範囲

住友金属鉱山株式会社 (Sumitomo Metal Mining Co., Ltd.: SMM)
住友金属鉱山グループ 当社および連結子会社*
住友金属鉱山 国内グループ 当社および国内の連結子会社*

※ 環境・安全衛生等の報告対象として、連結子会社以外にインパクトが大きいと判断した拠点について開示している

対象期間

(一部、対象期間以前、または以降の活動内容も含まれる)
国内: 2024年4月1日～2025年3月31日
海外: 2024年1月1日～2024年12月31日

発行年月

2025年9月

お問い合わせ先

住友金属鉱山株式会社 広報 IR 部
〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号
TEL 03-3436-7705
URL <https://www.smm.co.jp/contact/>

企業理念

私たち住友金属鉱山グループのルーツは、西暦1600年頃に「南蛮吹き」と呼ばれる銅の製錬技術を開発した蘇我理右衛門にまでさかのぼります。以後住友家は、銅製錬業、鉱山業などの事業を通して発展を遂げました。

一方住友家初代住友政友は商人としての心得を説いた「文殊院旨意書(もんじゅいんしいがき)」を残しました。そ

して、その教えは、「住友の事業精神」へと深化を遂げ、今も、住友家の事業を継承した私たち住友金属鉱山グループの精神的なバックボーンとなっています。

私たちの諸先輩は、430年以上の長きにわたりこの事業精神の実践を積み重ねて、社業を発展させてきました。私たちは、この先人達が築き上げてきた「住友の事業精神」

の持つ価値観、倫理観の重要性を今一度十分に認識し、当社グループの事業と事業に対する社会からの信頼を確固たるものにするべく、これからも努力を重ねていきます。

そして、この「住友の事業精神」に基づきグループ経営理念を定め、さらにグループ経営ビジョンを掲げて当社の目指すべき姿を明確にしています。

住友の事業精神

第1条

わが住友の営業は信用を重んじ、^{きょうこ} 確実を旨とし、もってその鞏固隆盛を期すべし

社会的な信用や相互の信頼関係を大切に、何事も誠意をもって確実に対応することにより、事業の確実な発展をはかっていくべきことを意味します。

第2条

わが住友の営業は時勢の変遷理財の得失を計り、^{しちょう} 弛張興廃することあるべしといえども、^{はし} いやしくも浮利に趨り軽進すべからず

旧来の事業に安住してマンネリズムに陥ることなく、時代の移り変わりによる社会のニーズの動向を鋭敏に捕えて、新しく事業を興し、あるいは廃止する等の処置をとることを意味し、積極進取の姿勢が重要なことを表しています。

同時に、いかなる場合においても、道義に反する手段で利益を追ったり、目先の利益に惑わされて、ものごとを十分調査・検討せずに取り進めたりしてはならないことを意味します。

1928年(昭和3年)住友合資会社社則「営業の要旨」より抜粋

SMM グループ経営理念

- 住友の事業精神に基づき、地球および社会との共存を図り、健全な企業活動を通じて社会への貢献とステークホルダーへの責任を果たし、より信頼される企業をめざします
- 人間尊重を基本とし、その尊厳と価値を認め、明るく活力ある企業をめざします

SMM グループ経営ビジョン

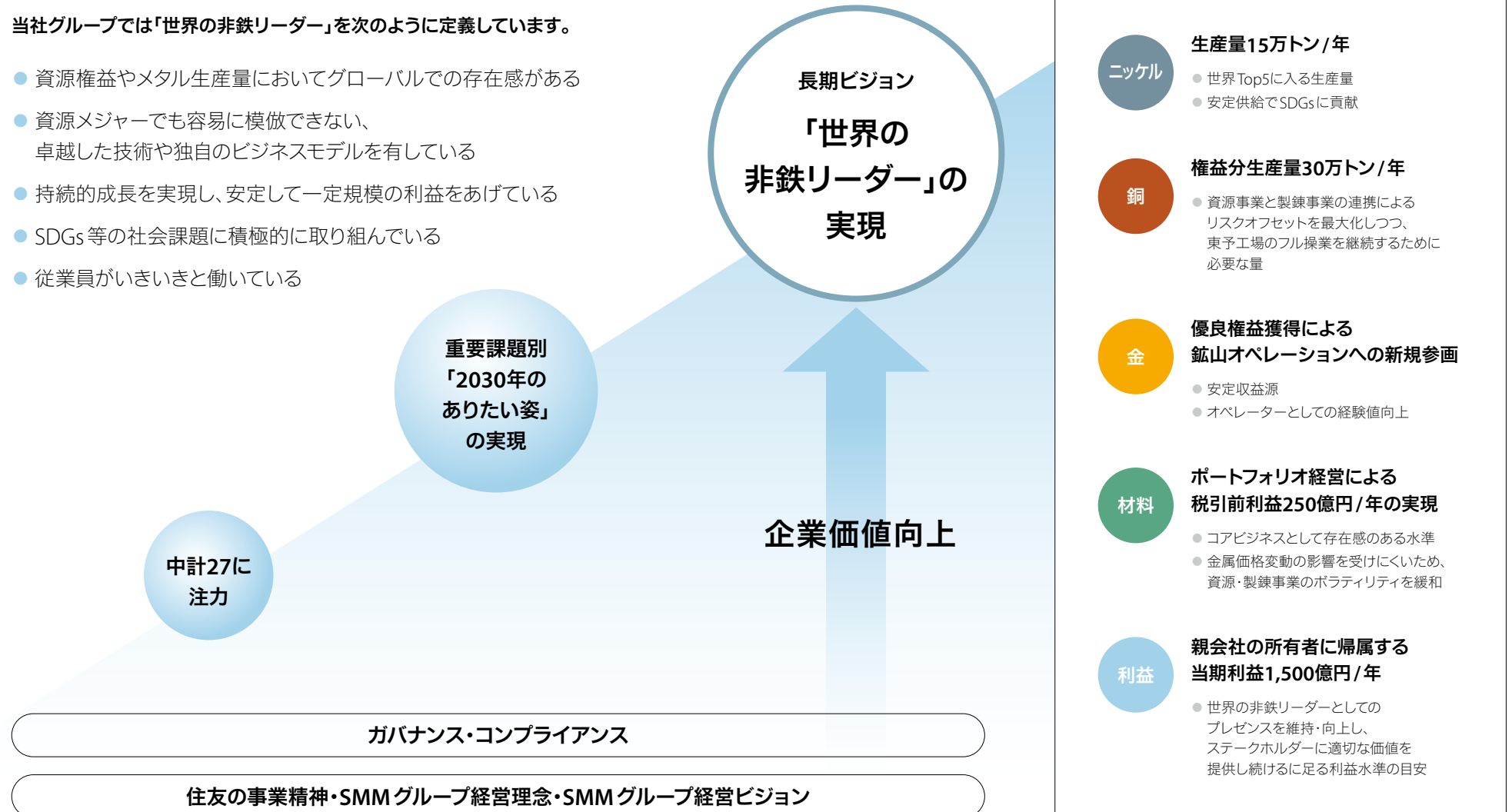
- 技術力を高め、ものづくり企業としての社会的な使命と責任を果たします
- コンプライアンス、環境保全および安全確保を基本としたグローバルな企業活動により、資源を確保し、非鉄金属、機能性材料などの高品質な材料を提供し、企業価値の最大化をめざします

長期ビジョン

「世界の非鉄リーダー」とは

当社グループでは「世界の非鉄リーダー」を次のように定義しています。

- 資源権益やメタル生産量においてグローバルでの存在感がある
- 資源メジャーでも容易に模倣できない、卓越した技術や独自のビジネスモデルを有している
- 持続的成長を実現し、安定して一定規模の利益をあげている
- SDGs等の社会課題に積極的に取り組んでいる
- 従業員がいきいきと働いている



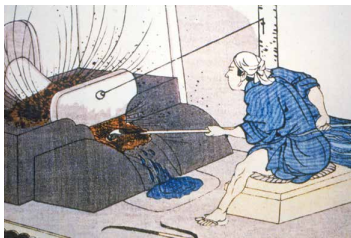
価値創造のあゆみ

430年以上にわたり、人々の生活に欠かせない非鉄金属を社会に提供してきたという歴史。その中で住友金属鉱山グループは、大きな事業環境の変化を鋭敏にとらえ、新たな価値を創造してきました。

これまで培ってきた金属を扱う技術、地球および社会との共存をうたう精神に基づき、多様化・高度化する社会要請の変化を事業機会ととらえ、これからも変革への新たな挑戦に取り組んでいきます。

南蛮吹き

銅鉱石の中に含まれる銀を抜き出す技術は当時の日本になく、銅に銀を含んだまま銅の価格で販売・輸出されていました。蘇我理右衛門が銅と銀を分離する「南蛮吹き」と呼ばれる製錬技術を開発。大阪の銅製錬業者に広く公開し、富の海外流出を防ぎました。



鼓銅図録 南蛮吹き図 住友史料館所蔵

1500 1600 1700 1800 1900

製錬事業

銅製錬

1590年 銅製錬事業の始まり

1590年、住友の銅事業は、京都で銅吹きと銅細工を開業したことに始まります。日本で初めて、「南蛮吹き」と称する銀・銅分離の技術を完成させたことにより、事業基盤を固めました。

1905年 新居浜沿岸部から四阪島に製錬所を移設

資源事業

銅鉱山

1691年 別子銅山開坑

別子銅山は1691年の開坑から283年にわたり操業を続け、住友の発展に大きく寄与しました。この別子銅山の開坑を機に、住友の事業は銅の製錬事業に加え資源事業へと広がっていきます。別子銅山で培われた鉱山技術は、世界に広がる当社の資源事業に脈々と受け継がれています。

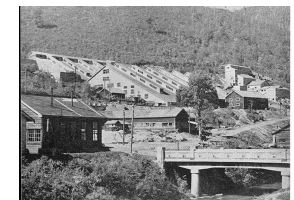


明治期の別子銅山図

金鉱山

1917年 金鉱山事業を開始

資源としての金の重要性が高まる中、北海道・鴻之舞鉱山の経営権を1917年に取得しました。



鴻之舞鉱山

材料事業

経営・サステナビリティ

1650年頃 文殊院旨意書(もんじゅいんしきがき)

現代に続く住友の事業精神は、住友家初代政友(1585年～1652年)が晩年、商人の心得を説いた文殊院旨意書が源となっています。

1894年 大規模植林事業

第二代総理事となる伊庭貞剛が別子銅山支配人に就任し、大規模な植林事業を開始。ピーク時には毎年200万本を超える植林を行い、別子山を緑あふれる山に蘇らせました。

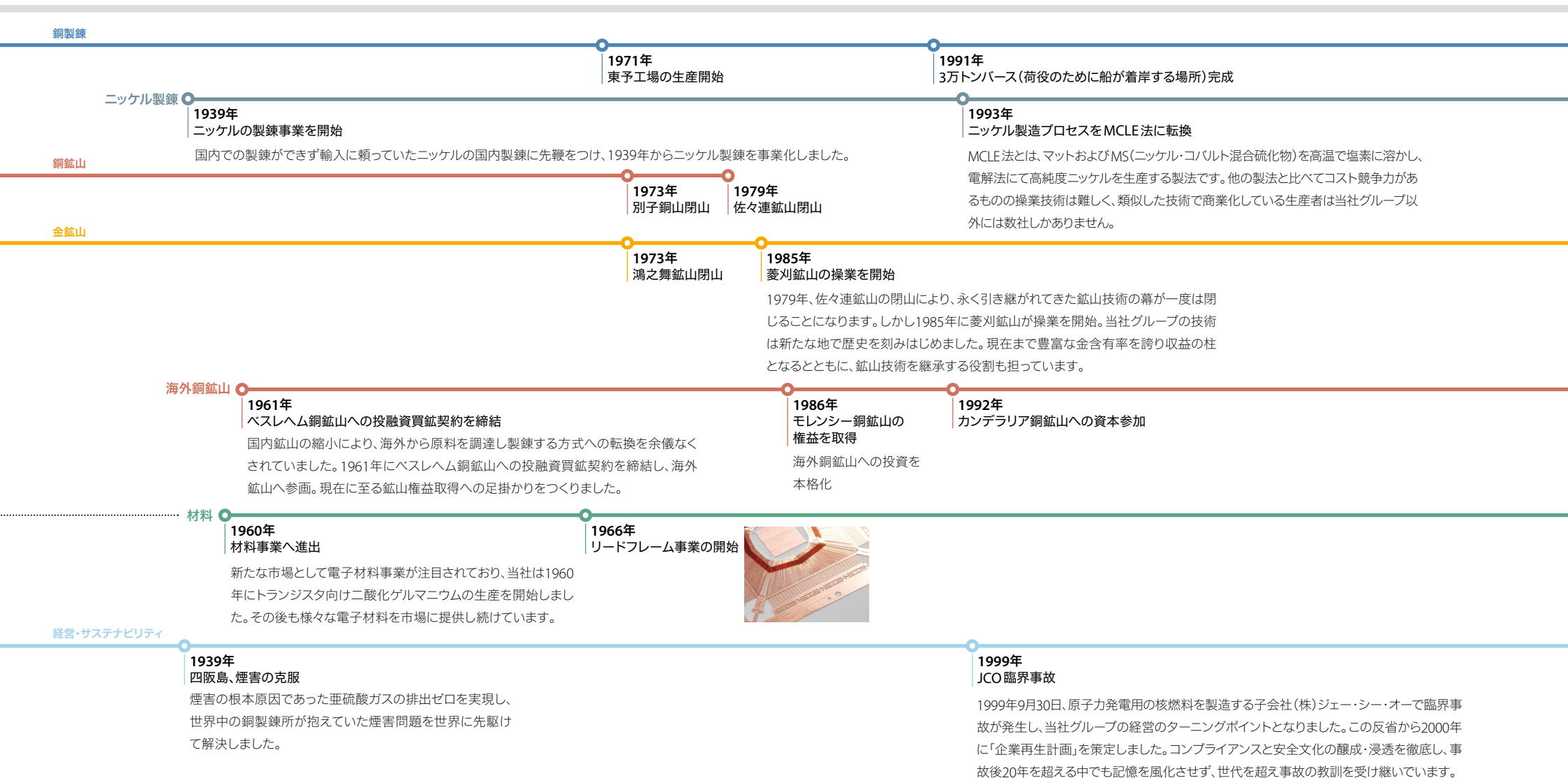


旧別子銅山
〔住友史料館所蔵〕



現在
画像提供〔住友林業(株)〕

価値創造のあゆみ



価値創造のあゆみ

2000

銅製錬

2004年
第二電解操業開始
新貴金属精製プラント(PMEX)操業開始

2016年
電気銅生産量45万トン／年達成
(45万1,472トン)

ニッケル製錬

2005年
コーラルベインニッケル(CBNC)生産開始

2013年
タガニートHPAL(THPAL)生産開始

CBNC、THPALは、HPAL(高圧硫酸浸出)法と呼ばれる、これまで回収が難しいとされていた低品位ニッケル酸化鉱からニッケルを回収する技術を利用しています。この技術は当社グループが、世界に先駆け商業ベースでの実用化を行いました。ニッケル資源の有効活用と自社調達に寄与するとともに、事業拠点であるフィリピンでの社会貢献活動なども行っています。

金鉱山

2006年
ポゴ金鉱山生産を開始

海外銅鉱山

2006年
セロ・ベルデ銅鉱山生産を開始

2015年
シエラゴルダ銅鉱山生産を開始

2016年
モレンソー銅鉱山の権益追加取得

材料

2001年
車載用電池向け正極材の生産を開始

2014年
住鉱エナジーマテリアル(株)を設立、
電池材料(正極材)の増産を決定、
SAW フィルター向けLT/LNの増産を決定

2016年
リードフレーム事業からの撤退を決定
経営資源を成長が見込まれる電池材料などの
拡大・強化に振り向けました。

経営・サステナビリティ

2002年
本業回帰

企業再生計画のあとを受け、2002年度からは事業の選択と集中をさらに進めることにより、当社グループの事業構造改革とコスト構造改革を進め、厳しい経営環境のもとでも国際競争に耐えることができる強靱な企業体質を築き、収益力の向上を図りました。

2004年
成長戦略の推進

大型プロジェクトの推進による「成長戦略」に大きく舵を切り、コアビジネスの拡充・強化に向け、成長分野に経営資源を集中しました。

2010年
資源・製錬・材料の3コア事業へ

「資源・製錬・材料」の3コア事業へビジネスモデルを転換。企業価値向上・競争力強化に向けた「成長戦略」を継続的に遂行しています。

2008年
「2020年のありたい姿」を策定

2015年
「2020年のありたい姿」を見直し

価値創造のあゆみ

銅製錬

2017年
リチウムイオン二次電池からの
銅とニッケルの回収プロセスの確立

ニッケル製錬

リチウムイオン二次電池からの銅とニッケルの回収

当社は東予工場の乾式銅製錬工程とニッケル工場の湿式ニッケル精錬工程を組み合わせた処理フローを確立し、原料中の不純物濃度を的確に管理することにより、リチウムイオン二次電池から銅およびニッケルを回収することに成功しました。回収されたニッケルは磯浦工場で硫酸ニッケルから二次電池の正極材料に加工され、日本で初めてリチウムイオン二次電池からの“電池 to 電池”の再資源化を実現しました。

2024年
リチウムイオン二次電池
リサイクルプラントの建設決定

2024年
フェロニッケルからニッケルマットを生産する
設備投資の実施決定

金鉱山

2017年
コテ金鉱山の権益を取得

2018年
ボゴ金鉱山の権益を譲渡

2022年
菱刈鉱山下部鉱体の鉱石採掘開始

2024年
コテ金鉱山生産を開始

海外銅鉱山

2019年
ケブラダ・ブランカ銅鉱山の
権益を取得

2022年
シエラゴルダ銅鉱山の権益を譲渡
全社的な資産ポートフォリオの見直しに伴い、
全権益保有持分を譲渡しました。

2023年
ケブラダ・ブランカ2プロジェクト生産を開始

2025年
ウィヌ銅・金プロジェクトの権益を取得

材料

2022年
リン酸鉄リチウム (LFP) 電池材料事業を譲受

2024年
8インチ SiC 基板の量産ライン構築を決定

2025年
新居浜工場(電池材料事業)の生産開始

経営・サステナビリティ

2019年
長期ビジョン見直し

2022年
2021年中期経営計画を公表

2020年
「2030年のありたい姿」を策定

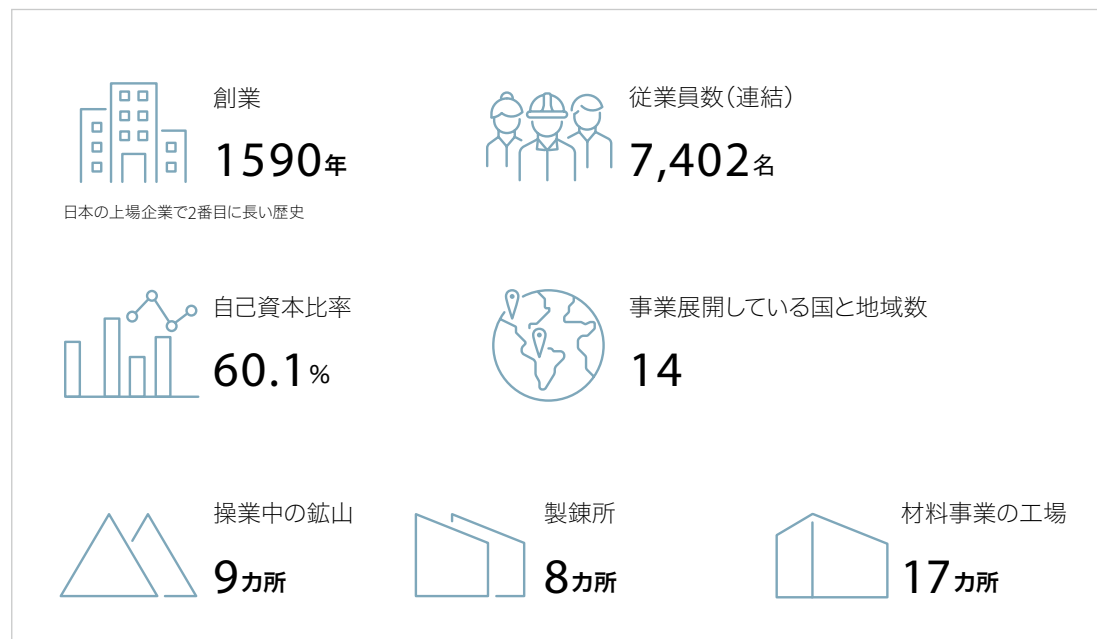
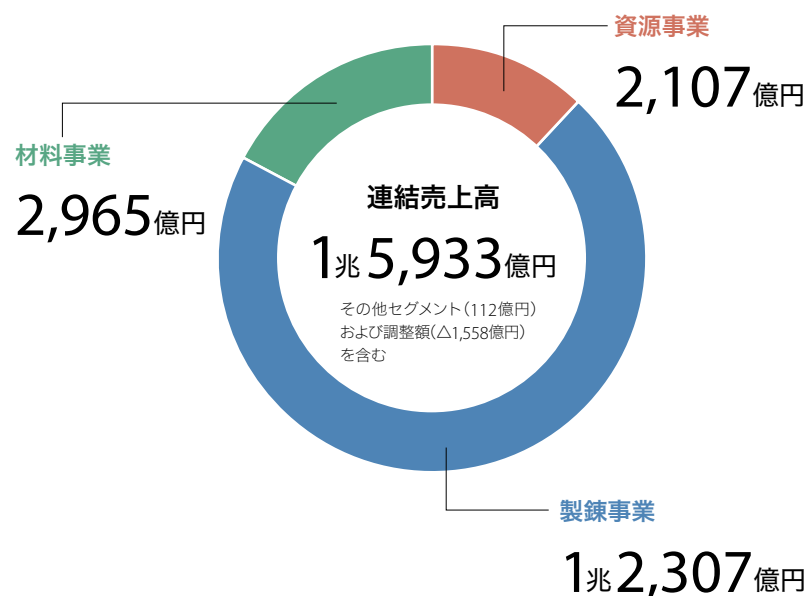
2024年
配当に関する方針の変更(DOE導入)

2023年
カーボンニュートラルに向けた
中間目標とロードマップを公表

2025年
「2030年のありたい姿」の見直し
中期経営計画2027を公表

At a Glance (2024年度実績)

セグメント別売上高



主な製品

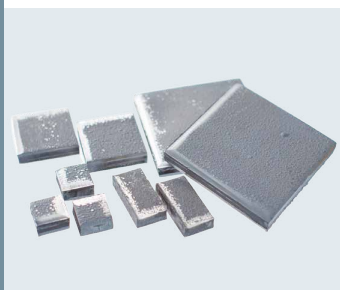
電気銅



金



電気ニッケル



電気コバルト



高機能材料



電池材料

機能性材料

3つのコア事業

資源事業

300年以上受け継がれてきた鉱山開発・運営の技術や経験を活かし、国内最大の金鉱山である菱刈鉱山でサステナビリティを重視した操業を行っています。海外で権益を保有する鉱山の運営に参画して銅や金などを生産し素材の提供を行うとともに、資源の確保に努めます。また、新たな優良鉱山の権益獲得や開発に取り組んでいます。

主要製品

金銀鉱、銅精鉱、銅、金、モリブデン等



菱刈鉱山累計産金量

272.6トンで日本一（2025年3月末時点）

製錬事業

1590年の銅製錬事業開始から430年以上にわたって様々な金属素材を幅広い産業に安定的に供給し続けています。銅製錬では、世界トップクラスの生産性を誇り、ニッケル製錬ではHPAL（高圧硫酸浸出）法による低品位ニッケル酸化鉱からのニッケル回収を世界で初めて商業ベースで成功させており、このような高度な製錬技術を強みに事業を展開しています。

主要製品

銅、金、銀、電気ニッケル、電気コバルト、フェロニッケル、パラジウム、化成品等



単一の自熔炉における溶解量

生産能力 **45万トン/年**で世界トップクラス

材料事業

電池材料や機能性材料といった自動車やエネルギー、環境、情報通信、家電など幅広い分野に利用される高性能材料の開発・提供を通じて、社会の発展やカーボンニュートラル社会の実現に貢献しています。

主要製品

電池材料、粉体材料、結晶材料、パッケージ材料、石油精製触媒、自動車触媒、潤滑剤等

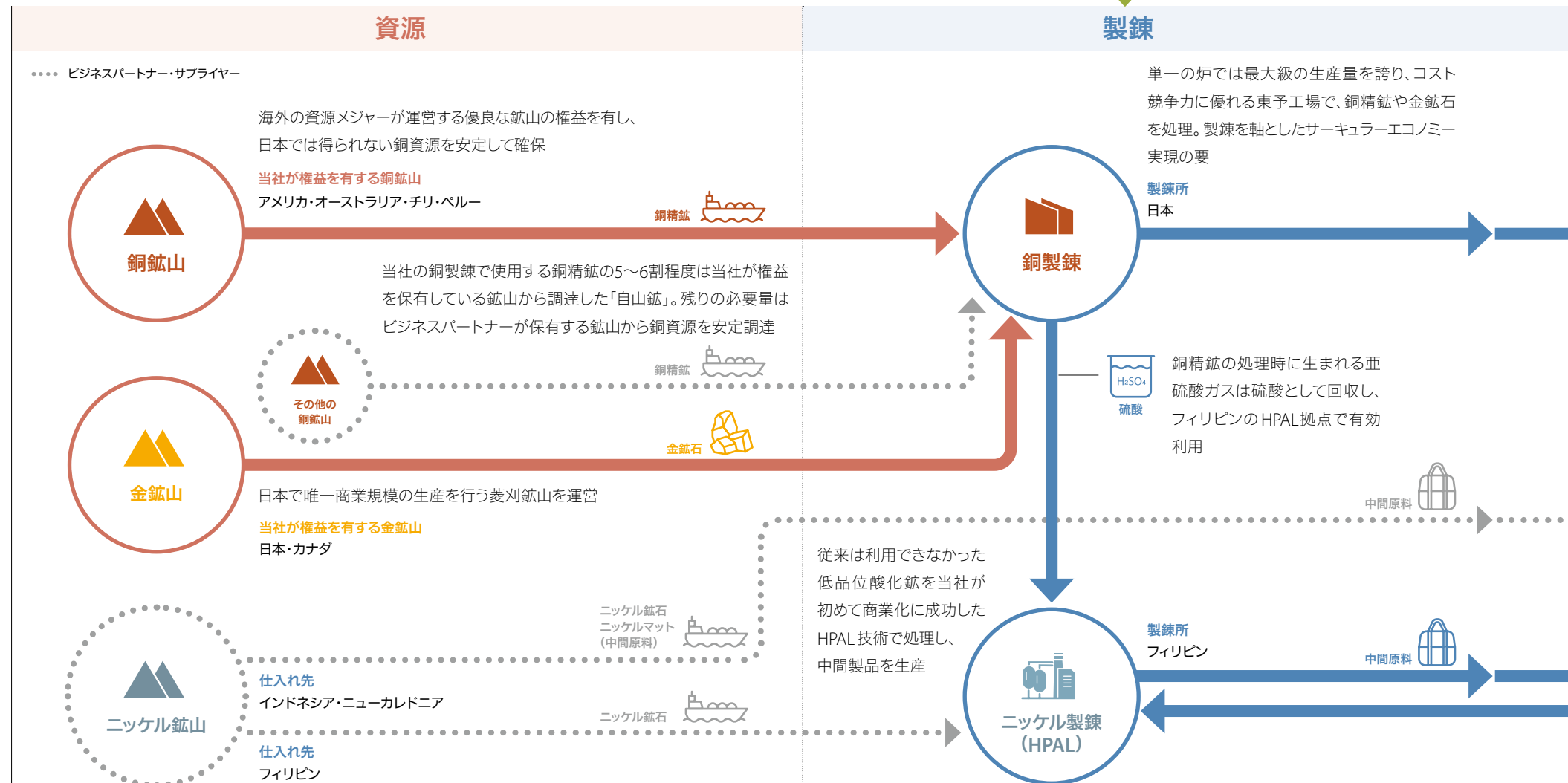


微粒ニッケル粉

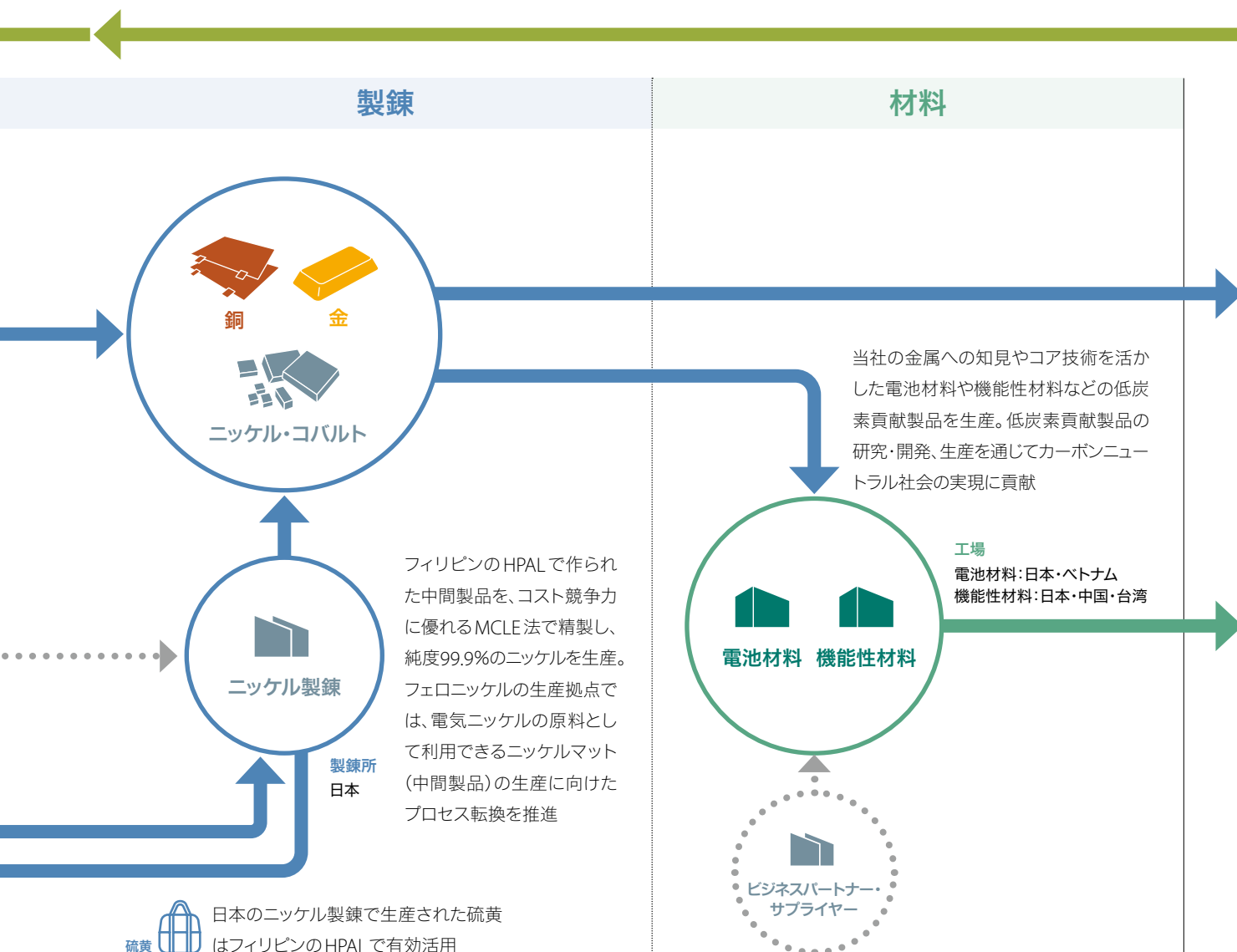
0.2 マイクロメートルクラスの微細粉末

マテリアルフロー

「資源」「製錬」「材料」の3事業が連携し、鉱石の確保から低炭素貢献製品の生産、リサイクルまでを含むモノの流れを、以下のマテリアルフローで解説しています。



マテリアルフロー



住友金属鉱山グループが提供する
非鉄金属、高機能材料は、
人々の豊かな生活の実現に貢献

世界経済の成長のみならず、
カーボンニュートラル実現にも寄与

リサイクル原料の調達

当社グループでは様々なリサイクル活動に取り組んでおり、銅スクラップなどの二次原料を再度製錬するほか、半導体部品などのスクラップから貴金属を抽出するなどリサイクルを行っています。

さらには、使用済みの車載用二次電池からメタル分を回収し、再度電池材料によみがえらせる電池リサイクルも推進。国内外で複数の企業とパートナーシップ協定を結び、自社のみならずサプライチェーン全体で持続可能な循環型社会の形成に貢献。

今後も、様々なリサイクルに取り組み、サーキュラーエコノミーの実現に貢献していきます。

E-scrap

使用済み
バッテリー